

第2回検討会の討議事項について（補足）

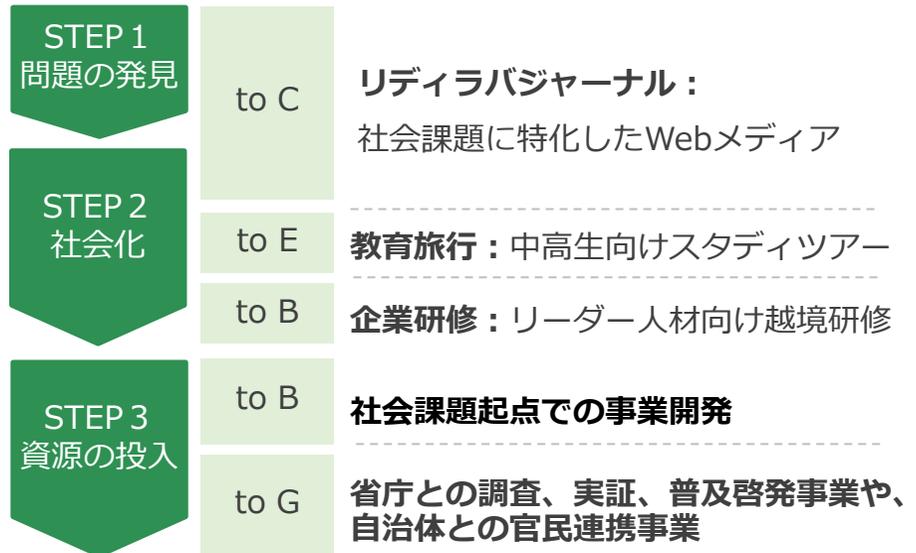
株式会社Ridilover



沿革

- 2009年 任意団体として設立
- 2012年 一般社団法人リディラバ 設立
- 2013年 株式会社Ridilover 設立

< 事業概要 >



**社会の無関心を打破し
社会課題解決のエコシステムを創る**

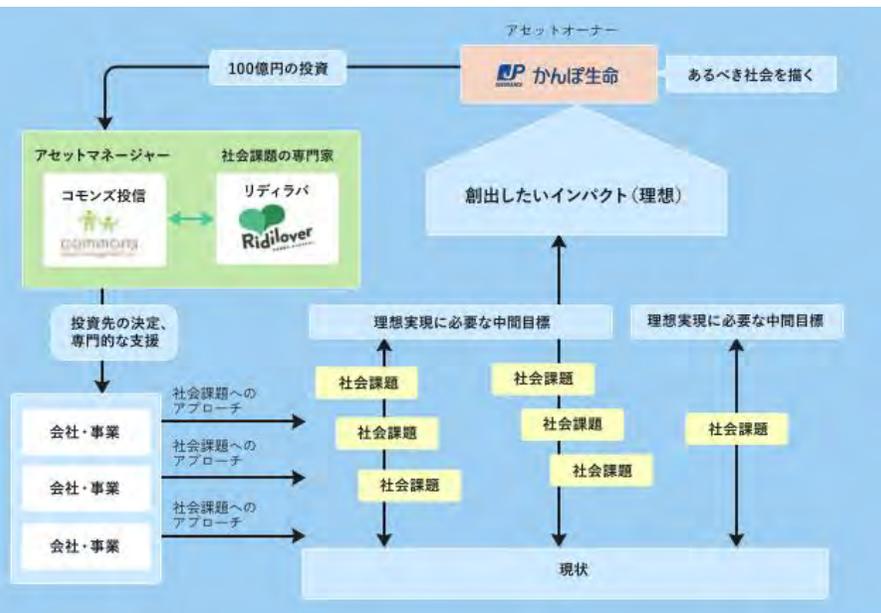
弊社の説明

コモンズ投信社・かんぽ生命社とのインパクトファンド運営

✓ かんぽ生命株式会社がアセットオーナー、コモンズ投信がアセットマネージャーとなる機関投資家向けファンド「コモンズ・インパクトファンド」(以下「本ファンド」)当初設定金額100億円)において、社会的インパクトの設定、評価に従事。

✓ 投資先企業の事業が社会課題のどの部分に対して価値提供しているのかを図示する社会課題の構造化マップ(後述)と、構造的な社会課題を事業KPIと連動させながら紐解いていくロジックモデルを制作し、アセットオーナー・アセットマネージャー・投資先企業との合意形成に努めた。

✓ 特に上場企業のインパクト投資ファンドは日本においても稀な取組であるため、当社はインパクト投資ファンドの新規性や重要性、インパクト・ウォッシュにならないようにするためのインパクトマネジメント方法を各ステークホルダーに共有し、同じ目線に立ってファンド運営できるよう注力した。

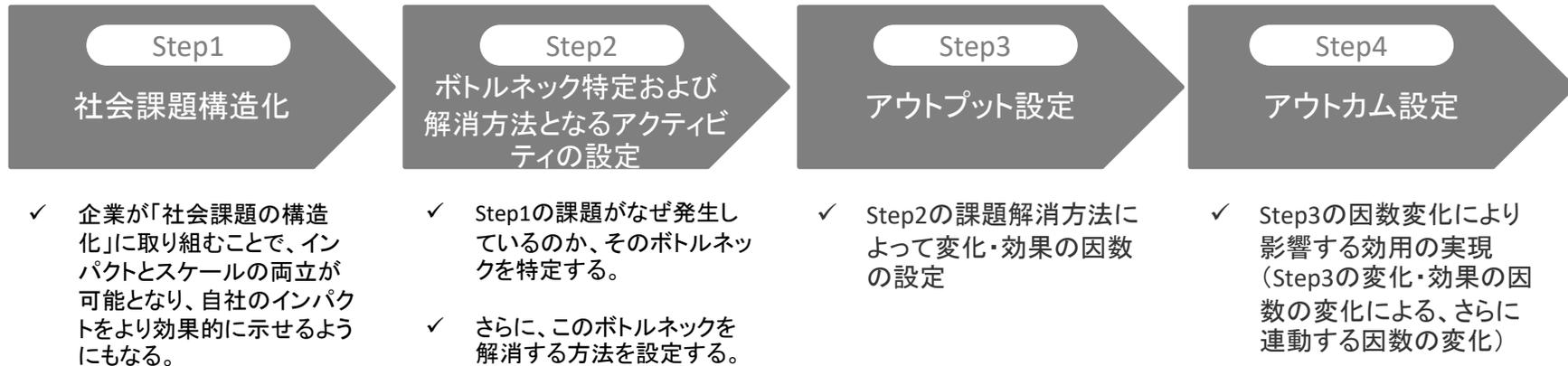


1. アクティビティ案について

リディラバが行うロジックモデル作成における全体の流れ

社会課題の構造化、ボトルネックの特定を行った上で、それらが解消された場合のアウトプットやアウトカムを設定し、ロジックモデルを作成している。

リディラバが行うロジックモデル作成における 全体の流れ



1. アクティビティ案について

構造化とそのポイント

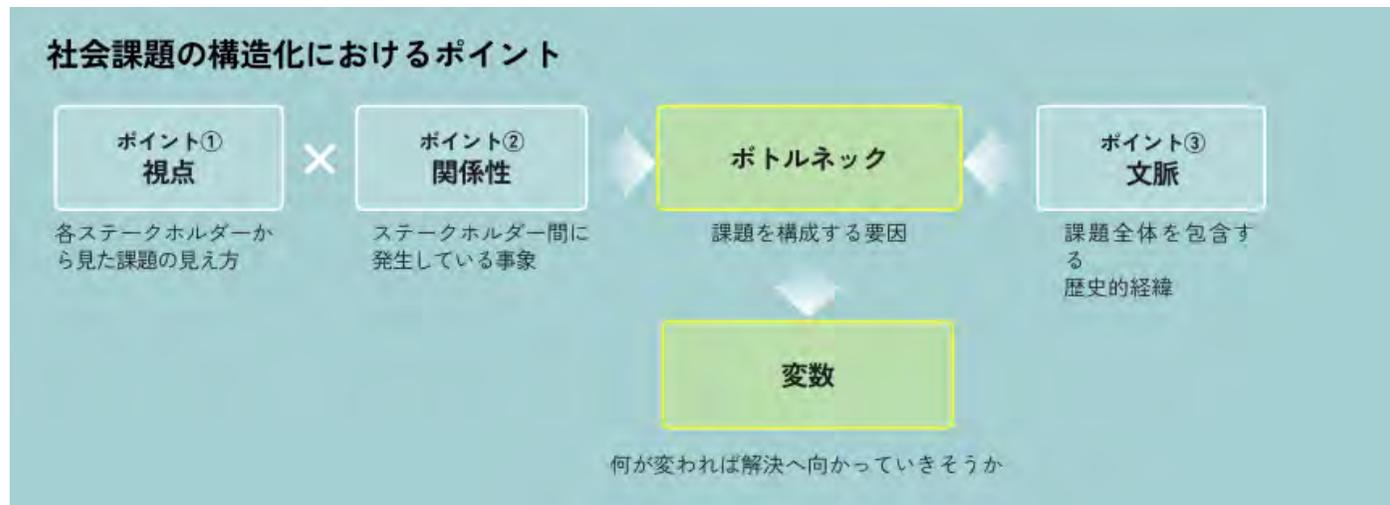
ロジックモデルの作成に当たっては、社会課題の構造化が重要。

「構造化」とは、複雑な課題の背景を「解きほぐして、整理すること」です。

社会で起こっている問題を考えるときに、ニュース番組で「…ということが問題になっています」と報道される事象をどう考えるかとイメージしがちですが、「構造化」の手法においては、ニュースで切りとられてしまう前の、問題の背景に広がる全体像を捉えることを重視します。

問題の表層だけを捉えて解決策を急ぐのではなく、その背景を解きほぐし、整理する—課題の本質を正しく捉えようとする試みが、「構造化」です。

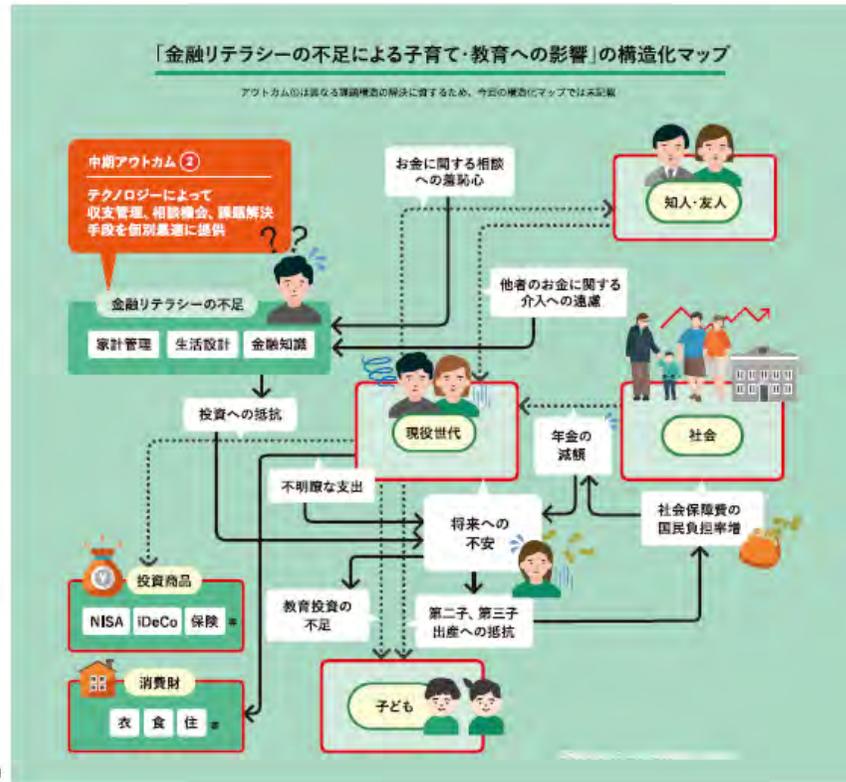
課題を読み解きボトルネックを探るために、以下の「視点」「関係性」「文脈」、解決策を考えるために「変数」というポイントをおさえて領域を可視化していきます。



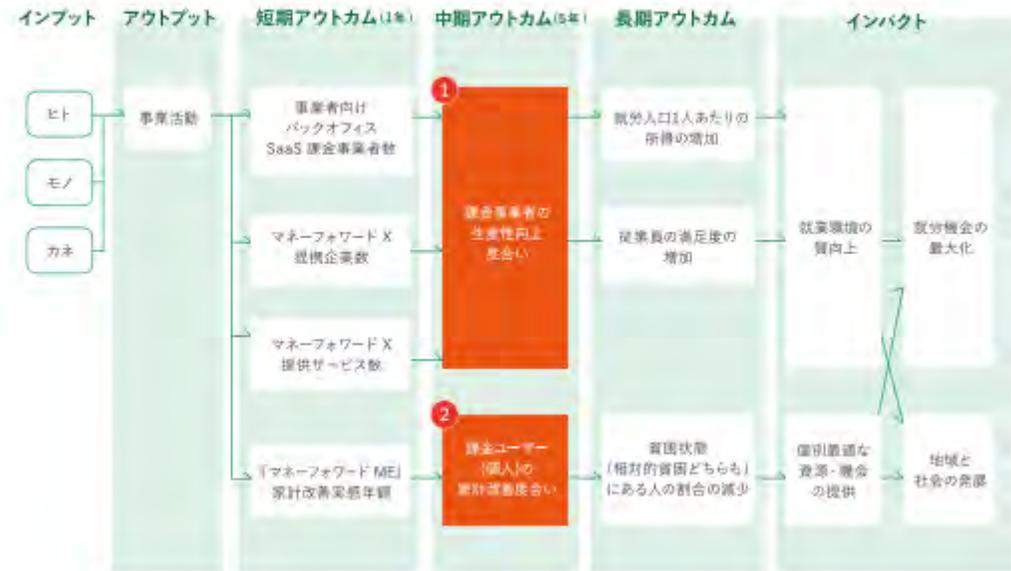
1. アクティビティ案について

構造化事例(参考)

アクティビティ起点の構造化 (金融リテラシー不足による子育て・教育への影響)



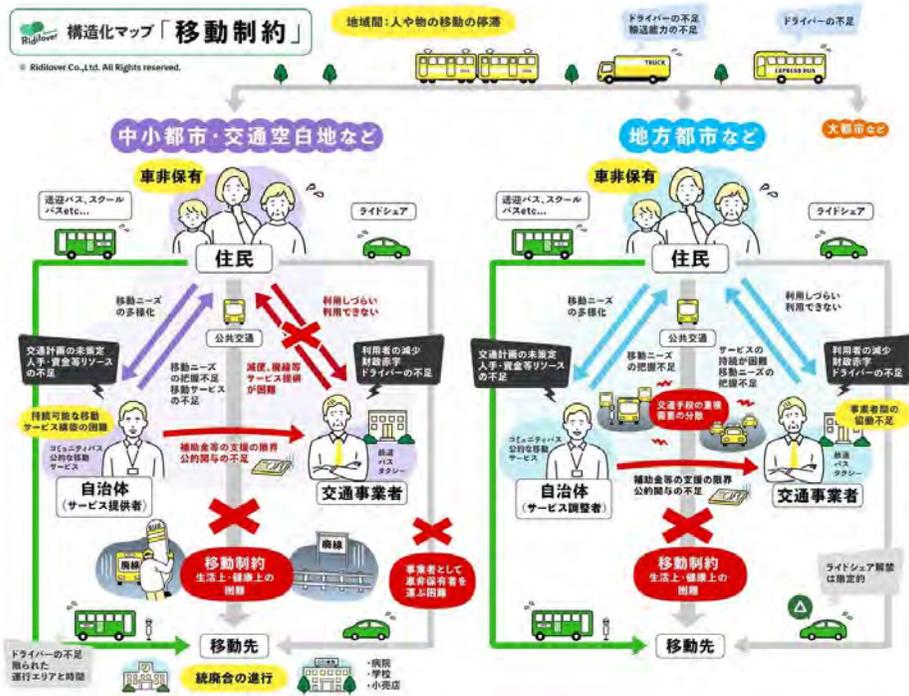
中長期アウトカムは、左の構造化マップと連関している



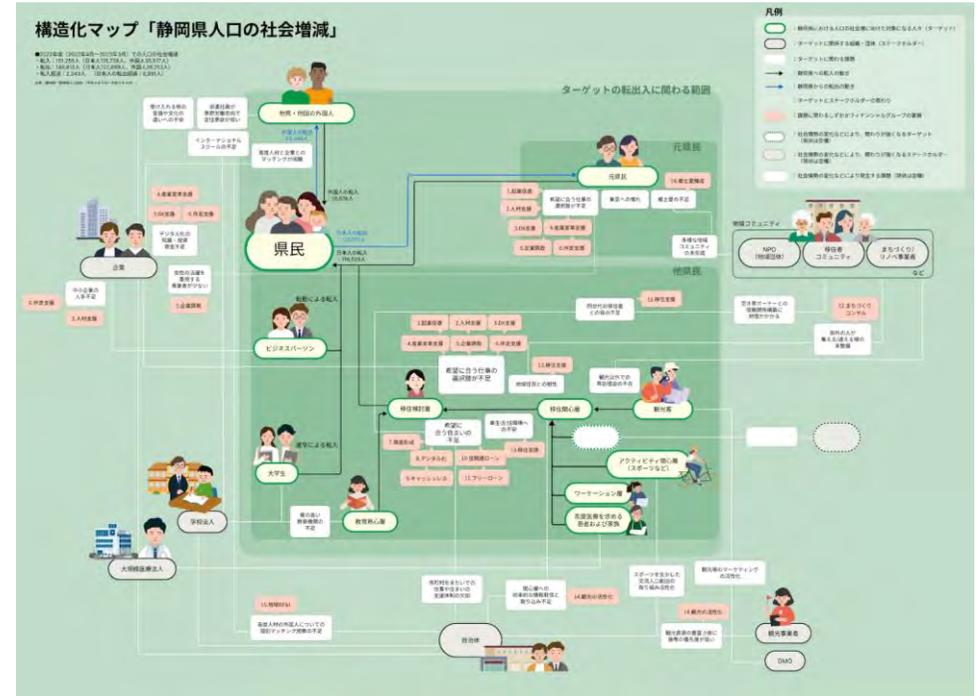
1. アクティビティ案について

構造化事例(参考)

テーマによる構造化(移動制約)



地域による構造化(地域の社会増減)



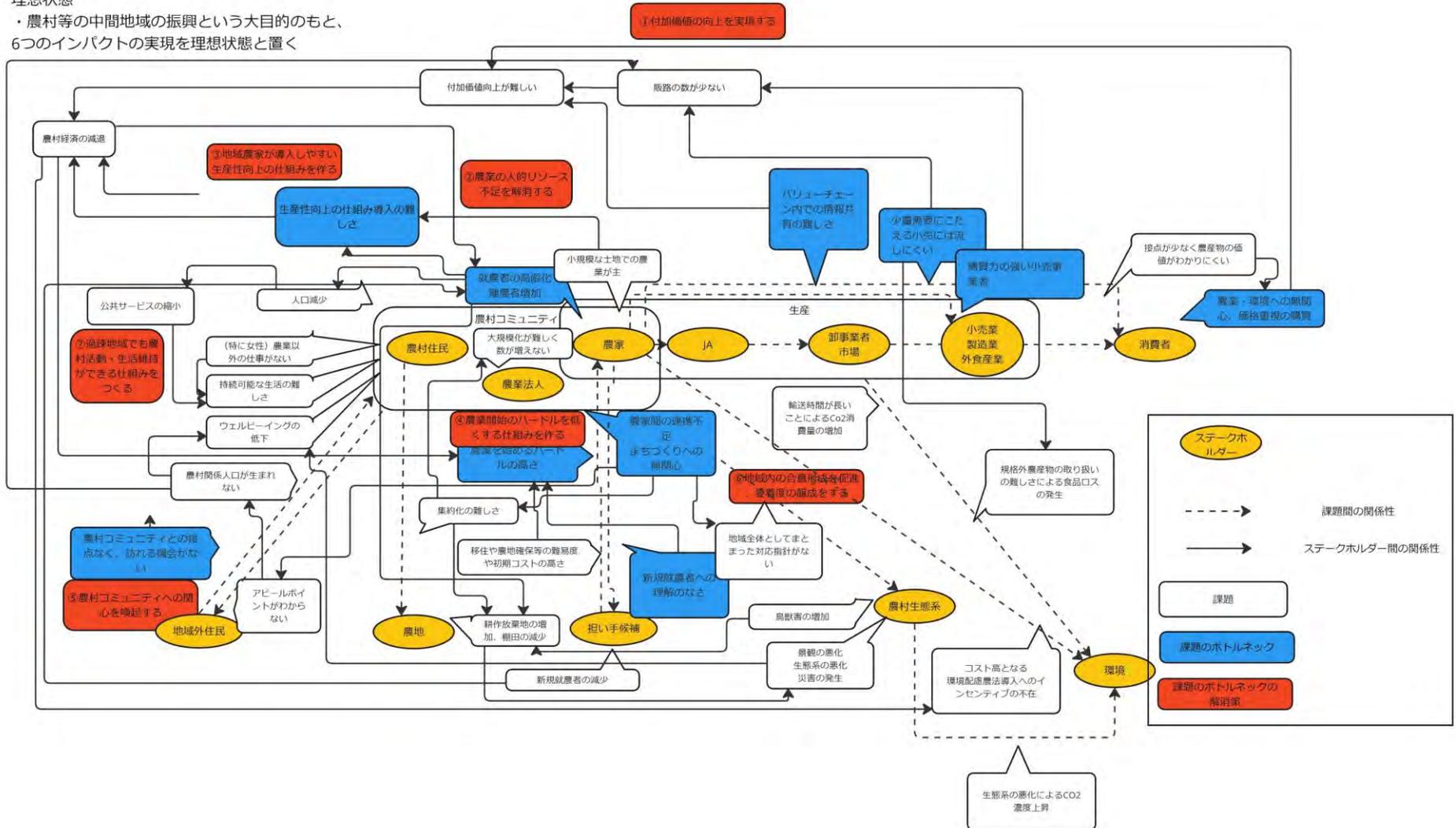
1. アクティビティ案について

構造化マップについて

農山漁村の課題の関係性を可視化すると以下のような構造化マップとなる
 (なお、以下はあくまで参考資料であり、農山漁村関連の課題の公式な整理ではない。)

理想状態

- ・農村等の中間地域の振興という大目的のもと、6つのインパクトの実現を理想状態と置く



1. アクティビティ案について

- 構造化マップで設定した「ボトルネックの解消策」にあてはまるアクティビティを設定。
- 企業が資金拠出・人材派遣を行う視点、自治体が企業版ふるさと納税（人材派遣型を含む）として行う視点から、可視化すべきアクティビティ案（特に解決すべきテーマ）について、これまでの事例も踏まえ、事前に委員に個別に相談していただいた意見をもとに候補案を作成。
- 「地方創生2.0」の基本的な考え方との関係性も含め、改めて各委員からご意見を頂戴し、議論いただきたい。

アクティビティ案（一例・イメージ）

7つのテーマ「ボトルネックの解消策」

①付加価値の向上を実現する

②農業の人的リソース不足を解決する

③地域農家が導入しやすい生産性向上の仕組みを作る

④農業開始のハードルを低くする仕組みを作る

⑤農村コミュニティへの関心を喚起する

⑥地域内の合意形成を促進する

⑦過疎地域でも農村活動・生活維持ができる仕組みを作る

- ・生産者と市場の間の出荷情報共有を円滑にする取組
- ・農作物の保存技術開発の取組
- ・GI（地理的表示）によって農産物をブランド化する取組
- ・生産～物流～小売を一気通貫で行う取組
- ・海外等、新たな小売事業者開拓の取組
- ・少量需要に応えられるよう、郵便局等とも連携した物流を効率化する取組
- ・（規格外野菜含め）生産者と消費者・外食産業を直接的につなぐ取組
- ・観光関係、森林サービス産業関係、海業関係の取組

- ・短期間アルバイト人材・副業人材とのマッチングの取組
- ・農協による副業的取組
- ・他業種とのパラレルワークとしての人材募集・マッチングの取組
- ・農福連携の取組
- ・特定地域づくり事業協同組合制度を活用した農村RMOへのマルチワーカー参加の取組

- ・専門作業を行うロボットやデータ分析等のスマート農業機械・サービスの開発・導入の取組
- ・スマート農業の導入支援の取組
- ・スマート農業技術を持つ高度人材の派遣の取組（②にも該当）

- ・農山漁村を深く体験できる移住体験の取組
- ・体験農園等提供の取組
- ・農業の技術・ビジネスに関する研修の取組
- ・新規就農者が地域で暮らすための基盤を整備する取組

- ・棚田オーナー等、都市住民の地域への継続的な関与を促す取組
- ・農村・農業を体験できる旅行・イベント・ワーケーション・教育事業等の取組
- ・企業のCSVとして農山漁村の人手不足を解消する取組

- ・ロボット等でインフラ維持の仕組みを省人化させる取組
- ・物流事業者が連携した共同配送の取組
- ・農村漁村における交通空白の解消に向けたライドシェアの取組
- ・多様な人材（女性等）がつける職の多様性を広げる取組
- ・農山漁村に賦存する再生可能エネルギーを地域内で循環させる取組

- ・学校給食での地場産品活用の取組（①にも該当）
- ・道の駅を中心とした小さな拠点等の取組（⑦にも該当）
- ・住民コミュニティの活性化を担う地域運営組織（農村RMO）の取組（⑦にも該当）
- ・農地集約等、地域課題に関して地域の合意形成を促進する取組
- ・耕作放棄地、農地マッチングの取組

1. アクティビティ案について

○ 列挙したアクティビティは、地方創生2.0基本構想の5本柱とも関連している。

地方創生2.0の基本構想の5本柱
（「地方創生2.0」の基本的な考え方より）

（※企業等による具体的な事例は今後精査・検討）
アクティビティ案（一例、イメージ）

①安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生

買物、医療・福祉、教育などの維持向上

「交通空白」の解消等に向けた地域交通のリ・デザインの全面展開など交通サービスの維持向上

地域の実情やサービスの性格を踏まえた「小さな拠点」など持続的なサービス拠点の構築

地域の担い手となる人材の確保（若者・女性・シニアや副業兼業人材など）

・少量需要に応えられるよう、郵便局等とも連携した物流を効率化する取組
・物流事業者が連携した共同配送の取組

・農山漁村における交通空白の解消に向けたライドシェアの取組

・道の駅を中心とした小さな拠点を整備する取組

・短期間アルバイト人材とのマッチングの取組
・他業種との平行ワークとしての人材募集・マッチングの取組
・特定地域づくり事業協同組合制度を活用した農村RMOへのマルチワーカー参入の取組

・住民コミュニティの活性化を担う地域運営組織（農村RMO）の取組
・農協による副業的取組
・鳥獣害対策の取組
・若者・女性が活躍する取組（多様な人材がつける職の多様性を拡げる取組）
・農地集約等、地域課題に関して地域の合意形成を促進する取組等

1. アクティビティ案について

地方創生2.0の基本構想の5本柱 （「地方創生2.0」の基本的な考え方より）

②東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散

二地域居住の推進方策の具体化などによる関係人口の拡大

③付加価値創出型の新しい地方経済の創生

農林水産品・食品や工芸品のブランド化、海外展開、高付加価値化

地方の異なる産業・部門が連携・融合した内発的なクラスターの形成と国・地方・民間が連携した総合支援

コンテンツ造成等の地域観光資源の磨き上げ、観光地の高付加価値化

学校給食における地産地消の推進

エネルギーの地産地消

地域の再生可能エネルギーの活用

地域の特性を活かした資源循環の推進

農山漁村の未利用資源の活用

④デジタル・新技術の徹底活用

デジタル公共財の普及促進、スタートアップ企業等との連携促進

※「⑤「産官学金労言」の連携など、国民的な機運の向上」については、「農山漁村」経済・生活環境創生プロジェクトの各活動そのものが該当

アクティビティ案（一例、イメージ）

（※企業等による具体的な事例は今後精査・検討）

- ・棚田オーナー等、都市住民の地域への継続的な関与を促す取組
- ・農村・農業を体験できる旅行・イベント・ワーケーション・教育事業等の取組
- ・企業のCSVとして農山漁村の人手不足を解消する取組
- ・農山漁村を深く体験できる移住体験の取組
- ・体験農園提供の取組
- ・新規就農者が地域で暮らすための基盤を整備する取組

- ・農作物の保存技術開発の取組
- ・GI(地理的表示)によって農産物をブランド化する取組
- ・海外等、新たな小売事業者開拓の取組

- ・内発的なクラスター形成の取組

- ・観光関係、森林サービス産業関係、海業関係の取組

- ・学校給食での地場産品活用の取組

- ・農山漁村に賦存する再生可能エネルギーを地域内で循環させる取組

- ・未利用資源活用の取組

- ・生産～物流～小売を一気通貫で行う取組
- ・生産者と消費者・外食産業を直接的につなぐ取組
- ・農業技術・ビジネスに関する研修の取組
- ・農福連携の取組
- ・生産者と市場の間の出荷情報共有を円滑にする取組等

- ・専門作業を行うロボットやデータ分析等のスマート農業機械・サービスの開発・導入の取組
- ・スマート農業の導入支援の取組
- ・スマート農業技術を持つ高度人材の派遣の取組
- ・ロボット等でインフラサービスを省人化させる取組
- ・デジタル技術を活用した耕作放棄地、農地マッチングの取組

1. アクティビティ案について

○ 列挙したアクティビティと対応する事例は、以下の通り。ガイドライン上でも記載していく予定。

アクティビティ	対応事例
生産者と市場の間の出荷情報共有を円滑にする取組	fudoloop(検討中)
農作物の保存技術開発の取組	ZEROCO
GI(地理的表示)によって農産物をブランド化する取組	事例を確認中。追って具体的に追加予定
生産～物流～小売を一気通貫で行う取組	和郷園
海外等、新たな小売事業者開拓の取組	日本農業
少量需要に応えられるよう、郵便局等とも連携した物流を効率化する取組	おたがいマーケット(郵便局)
(規格外野菜含め)生産者と消費者・外食産業を直接的につなぐ取組	ビビットガーデン(食ベチョク)、雨風太陽(ポケットマルシェ)
観光関係、森林サービス産業関係、海業関係の取組	事例を確認中。追って具体的に追加予定
短期間アルバイト人材とのマッチングの取組	daywork/YUIME
農協による副業的取組	事例を確認中。追って具体的に追加予定
他業種とのパラレルワークとしての人材募集・マッチングの取組	パーソル(ミイダス)(検討中)
農福連携の取組	事例を確認中。追って具体的に追加予定
特定地域づくり事業協同組合制度を活用した農村RMOへのマルチワーカー参入の取組	えーひだカンパニー
専門作業を行うロボットやデータ分析等のスマート農業機械・サービスの開発・導入の取組	レグミン
スマート農業の導入支援の取組	Inaho
スマート農業技術を持つ高度人材の派遣の取組	アルプスアグリキャリア

1. アクティビティ案について

○ 列挙したアクティビティと対応する事例は、以下の通り。ガイドライン上でも記載していく予定。

アクティビティ	対応事例
農山漁村を深く体験できる移住体験の取組	パソナ農援隊
体験農園等提供の取組	マイファーム
農業の技術・ビジネスに関する研修の取組	パソナ農援隊
新規就農者が地域で暮らすための基盤を整備する取組	瀬戸内ReFarming
棚田オーナー等、都市住民の地域への継続的な関与を促す取組	越後妻有協働機構(棚田バンク)
農村・農業を体験できる旅行・イベント・ワーケーション・教育事業等の取組	おてつたび
企業のCSVとして農山漁村の人手不足を解消する取組	ひろさき援農プロジェクト
学校給食での地場産品活用の取組	五穀豊穡
道の駅を中心とした小さな拠点等の取組	事例を確認中。追って具体的に追加予定
住民コミュニティの活性化を担う地域運営組織(農村RMO)の取組	Ventos
農地集約等、地域課題に関して地域の合意形成を促進する取組	事例を確認中。追って具体的に追加予定
耕作放棄地、農地マッチングの取組	サグリ(ニナタバ)
ロボット等でインフラ維持の仕組みを省人化させる取組	セイノー
物流事業者が連携した共同配送の取組	ゼンリン(おむす便)
農村漁村における交通空白の解消に向けたライドシェアの取組	事例を確認中。追って具体的に追加予定
多様な人材(女性等)がつける職の多様性を拡げる取組	事例を確認中。追って具体的に追加予定
農山漁村に賦存する再生可能エネルギーを地域内で循環させる取組	事例を確認中。追って具体的に追加予定

(参考) 新しい地方経済・生活環境創生本部について

- ・「地方こそ成長の主演」との発想に基づき、地方がそれぞれの特性に応じた発展を遂げることができるよう、日本経済成長の起爆剤としての大規模な地方創生策を講ずるため、内閣に、新しい地方経済・生活環境創生本部が設置された。
- ・まずは、今後10年間集中的に取り組む「基本構想」の策定に向けて議論を進める。

地方創生2.0の趣旨

- 都市も地方も、安心・安全で心豊かに暮らせる持続可能な地域経済社会を創るため、これまでの成果と反省を活かし、地方創生2.0として再起動させ、人口減少対策につなげる。
- 国は、国でなければできないこと、国として挑戦せねばならぬことに取り組む。省庁の縦割りを排し、各省連携して施策を「統合化」、「重点化」して推進する。
- 地方は、「産官学金労言」から成る地域のステークホルダーが知恵を出し合い、他の地域の好事例も学びつつ、自主的・主体的に取り組む。

石破内閣総理大臣就任会見（令和6年10月1日）【抜粋】

第四は、「地方を守る」ということであります。

地方こそが成長の主演であります。我が日本は、農業、漁業、林業の多くの好条件を備えておるところであります。農業、漁業、林業が発展するために、多くの好条件を備えていると、こういう認識を私は持つておるところでございます。観光やサービス産業を含め、日本経済成長の起爆剤として、地方創生担当の初代大臣を務め、人口最少県の鳥取をふるさとに持つ者として、私自身、強い決意を持って取り組んでまいります。

これは地方創生大臣のときによく申し上げたことですが、「産官学金労言」と、こう申します。産業界であり、そして、行政であり、そして、大学に限りません。高等学校であり、中学校であり、学問。金というのは、金融機関でございます。労というのは、労働者の皆様方です。言というのは、地元の報道機関であります。

役所だけが地方創生をやるのではございません。地域の様々なステークホルダーの皆様方が知恵を出し合い、地方がそれぞれの特徴に応じて発展していくこと。これが本質であり、それを政府も後押しをいたしてまいります。

「新しい地方経済・生活環境創生本部」を創設し、担当大臣を設置し、今後10年間、集中的に取り組む基本構想を作成いたしてまいります。この取組を「地方創生2.0」として強力に推進をいたしてまいります。

(参考) アクティビティ案の設定方針

- 農山漁村をフィールドに行われる課題解決の取組(アクティビティ)の代表例については、「地方創生2.0」の基本的な考え方に基づいて設定予定。

地方創生2.0の基本構想の5本柱

①安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生

- 魅力ある働き方、職場づくり、人づくりを起点とした社会の変革により、楽しく働き、楽しく暮らせる場所として、「若者・女性にも選ばれる地方(=楽しい地方)」をつくる
- 年齢を問わず誰もが安心して暮らせるよう、地域のコミュニティ、日常生活に不可欠なサービスを維持
- 災害から地方を守るための事前防災、危機管理

②東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散

- 分散型国づくりの観点から、企業や大学の地方分散や政府機関等の移転などに取り組む
- 地方への移住や企業移転、関係人口の増加など人の流れを創り、過度な東京一極集中の弊害を是正

③付加価値創出型の新しい地方経済の創生

- 農林水産業や観光産業を高付加価値化し、自然や文化・芸術など地域資源を最大活用した高付加価値型の産業・事業を創出
- 内外から地方への投融資促進
- 地方起点で成長し、ヒト・モノ・金・情報の流れをつくるエコシステムを形成

④デジタル・新技術の徹底活用

- ブロックチェーン、DX・GXの面的展開などデジタル・新技術を活用した付加価値創出など地方経済の活性化、オンライン診療、オンデマンド交通、ドローン配送や「情報格差ゼロ」の地方の創出など、地方におけるデジタルライフラインやサイバーセキュリティを含むデジタル基盤の構築を支援し、生活環境の改善につなげる
- デジタル技術の活用や地方の課題を起点とする規制・制度改革を大胆に進める

⑤「産官学金労言」の連携など、国民的な機運の向上

- 地域で知恵を出し合い、地域自らが考え、行動を起こすための合意形成に努める取組を進める
- 地方と都市の間で、また地域の内外で人材をシェアする流れをつくる

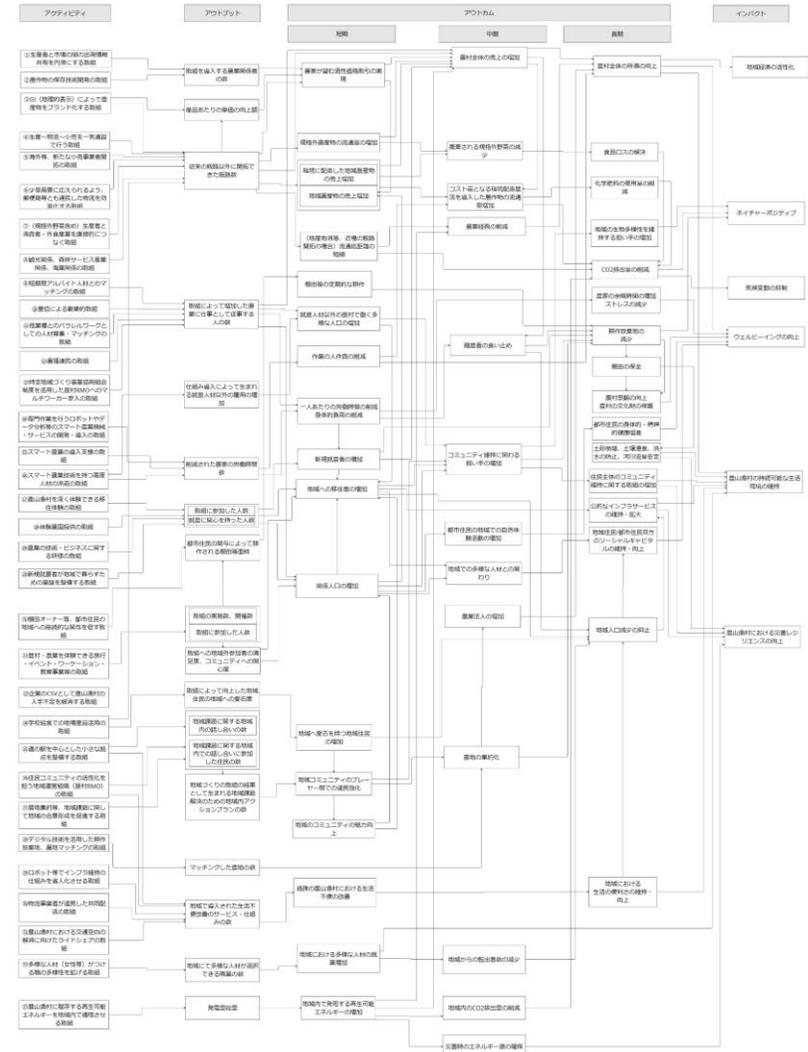
3. ロジックモデル案について

- 各ロジックモデルの作り方や因果関係について各委員のご意見を頂戴したい。
- 今回のロジックモデルの目的は、「農山漁村の課題と、企業が関心を持つような社会課題との関係性の可視化」が主眼であるため、具体的な指標の設定までは今回は行わないこととする。

- ・まずは右図の通り、全体像となるロジックモデルを作成
- ・実際のガイドラインにおいては、各アクティビティごとにページを分けて整理していく予定

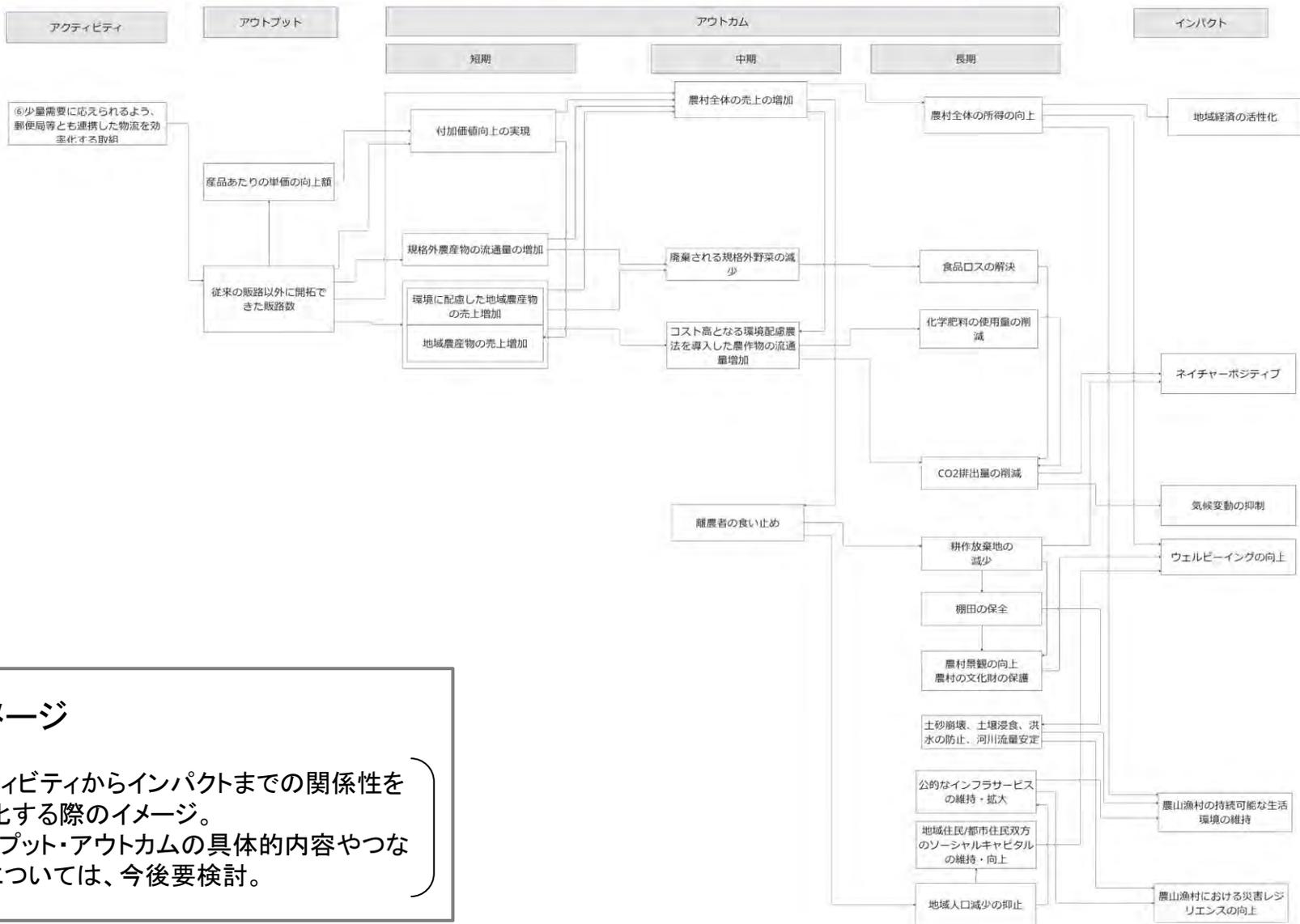
※イメージ

アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。
アウトプット・アウトカムの具体的な内容やつながりについては、今後要検討。



3. ロジックモデル案について

①付加価値の向上を実現する：少量需要に応えられるよう、郵便局等とも連携した物流を効率化する取組

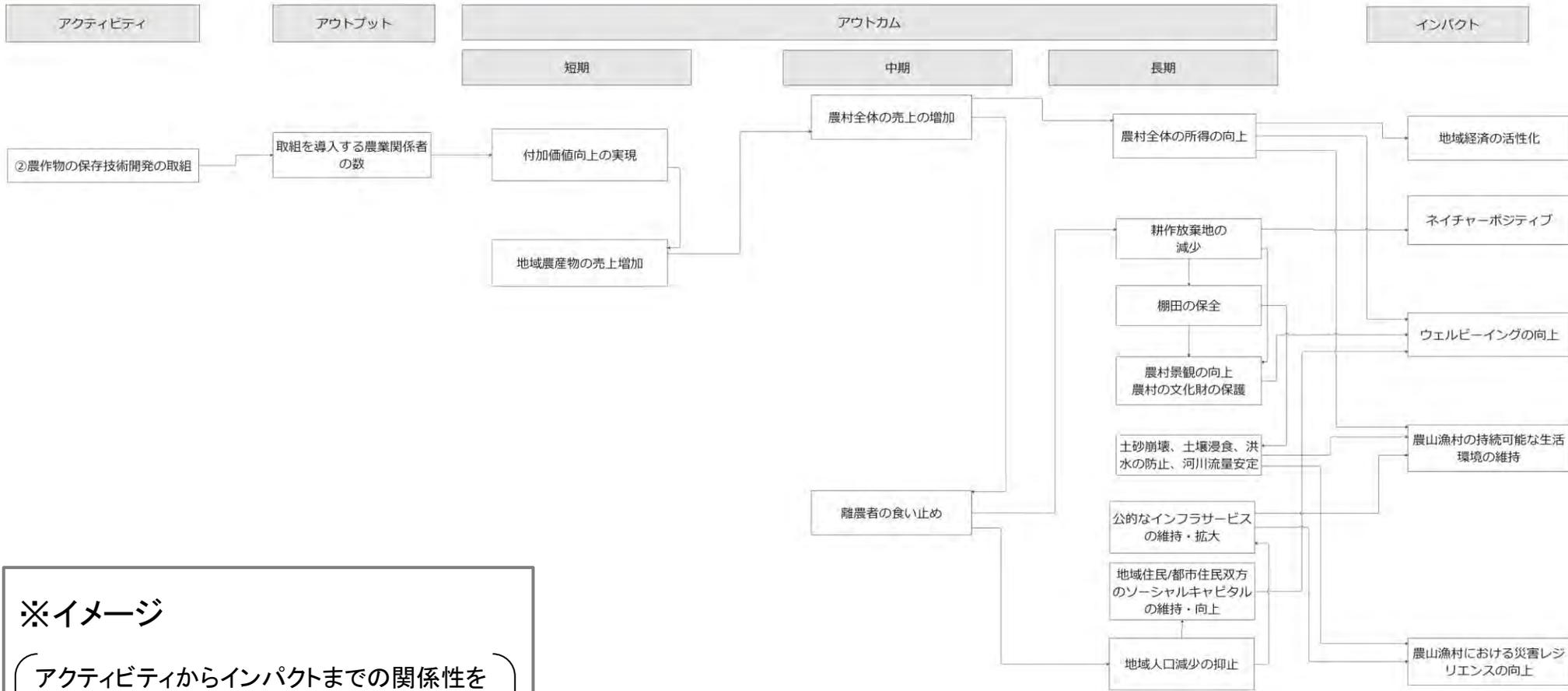


※イメージ

アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。
アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。

3. ロジックモデル案について

①付加価値の向上を実現する：農作物の保存技術開発の取組



※イメージ

アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。

3. ロジックモデル案について

⑤農村コミュニティへの関心を喚起する：企業のCSVとして農山漁村の人手不足を解消する取組

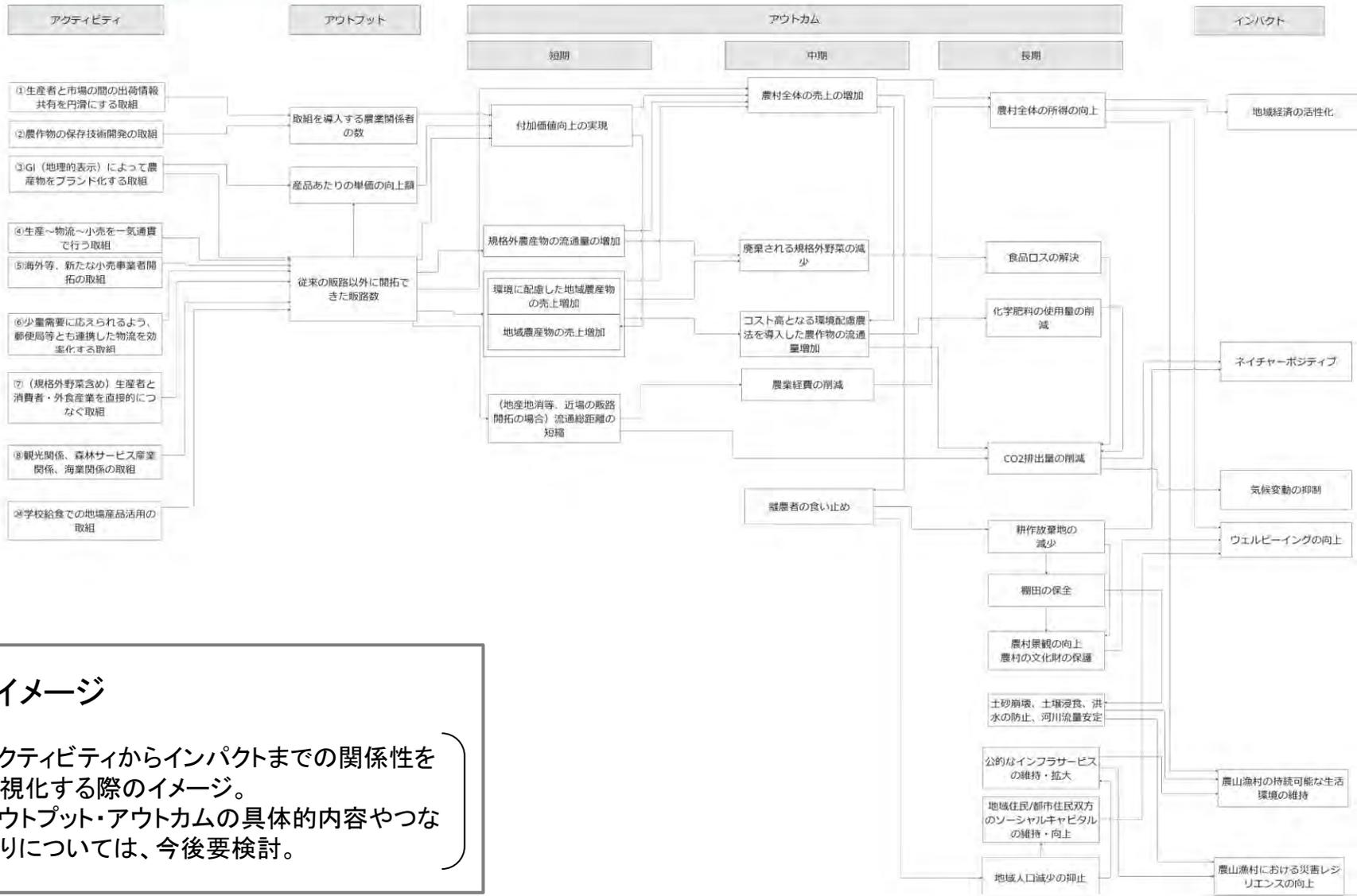


※イメージ

（アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。）

3. ロジックモデル案について（参考：テーマ別ロジックモデル）

①付加価値の向上を実現する

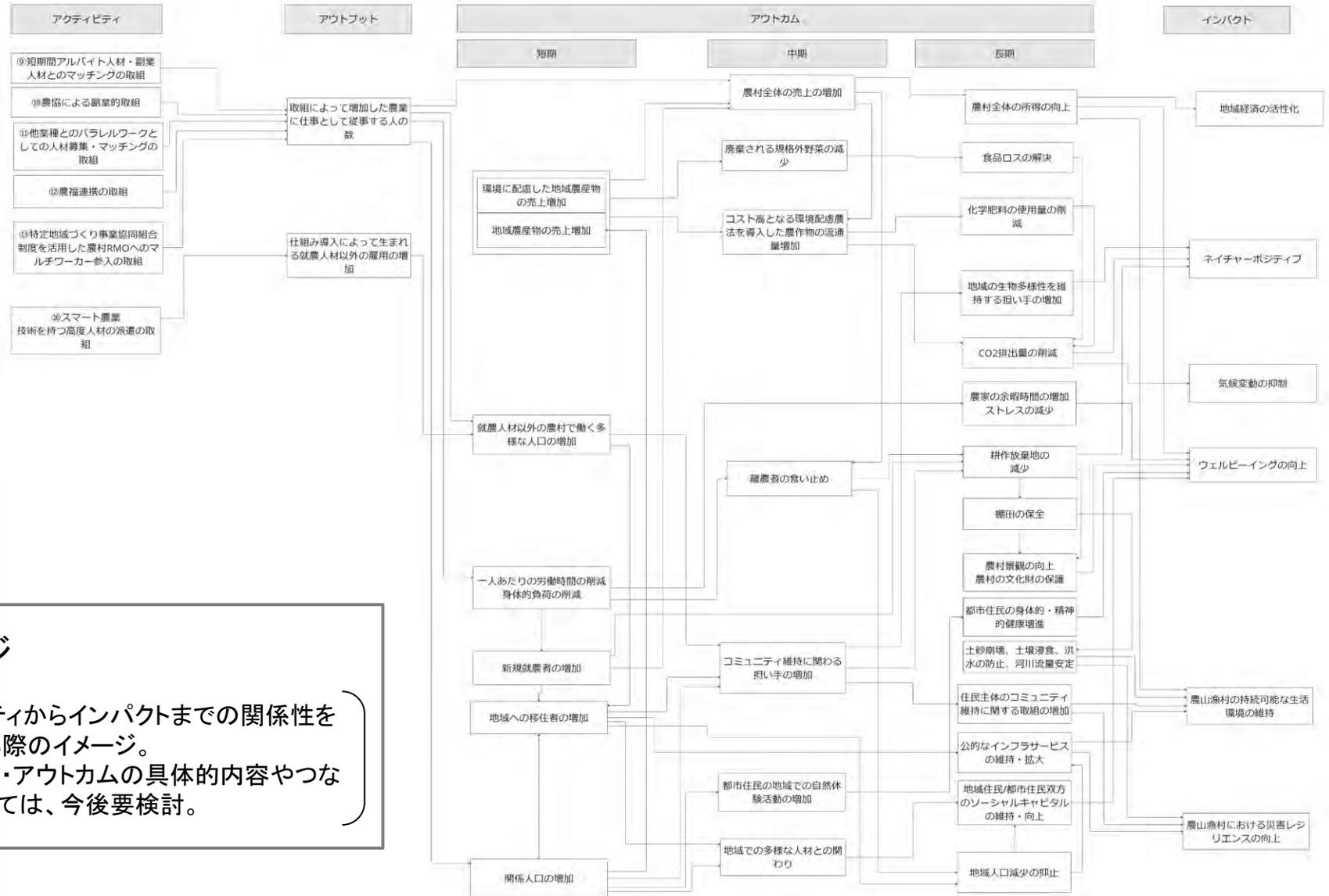


※イメージ

アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。
アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。

3. ロジックモデル案について（参考：テーマ別ロジックモデル）

② 農業の人的リソース不足を解決する

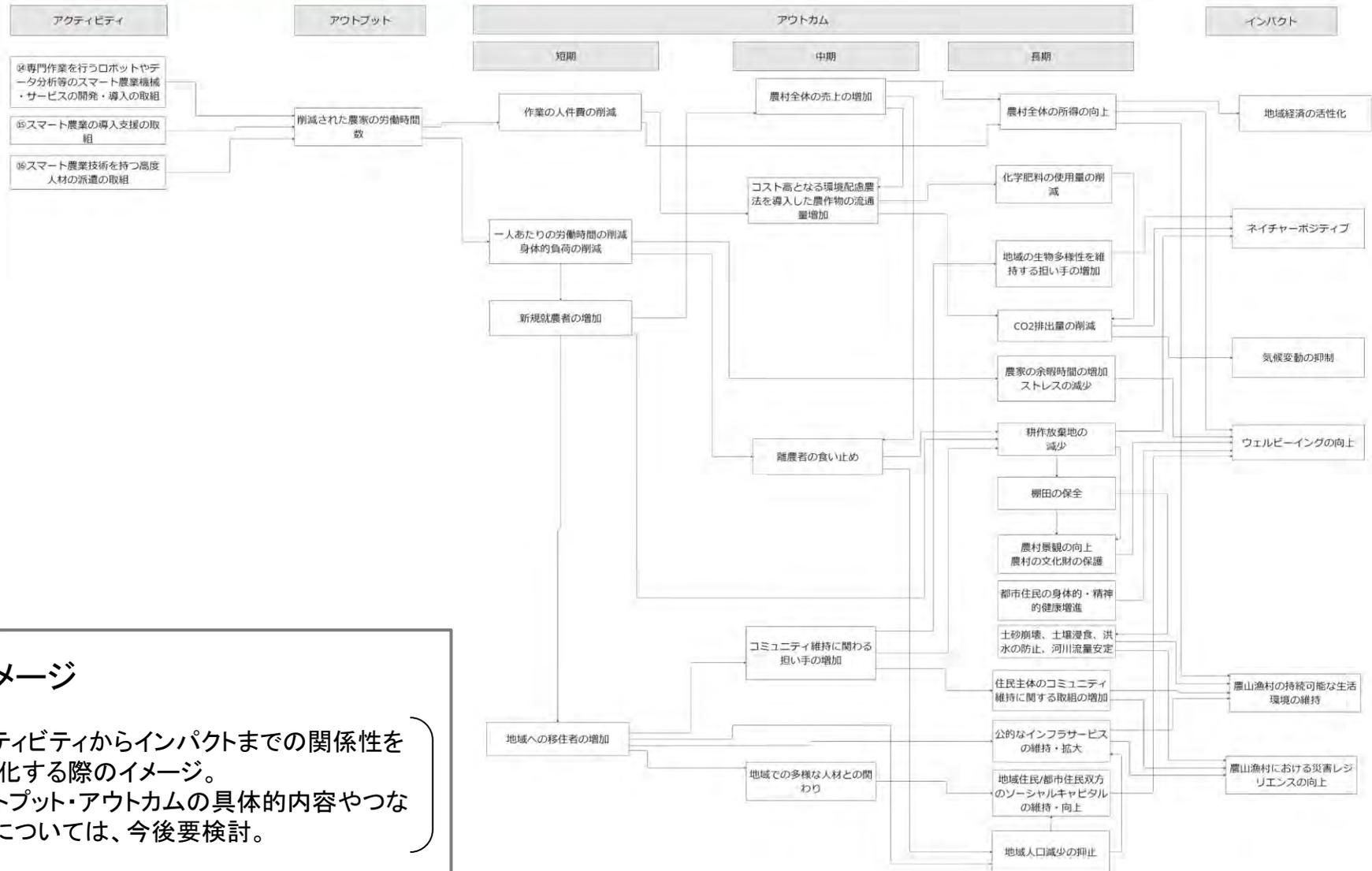


※イメージ

アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。
アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。

3. ロジックモデル案について（参考：テーマ別ロジックモデル）

③ 地域農家が導入しやすい生産性向上の仕組みを作る

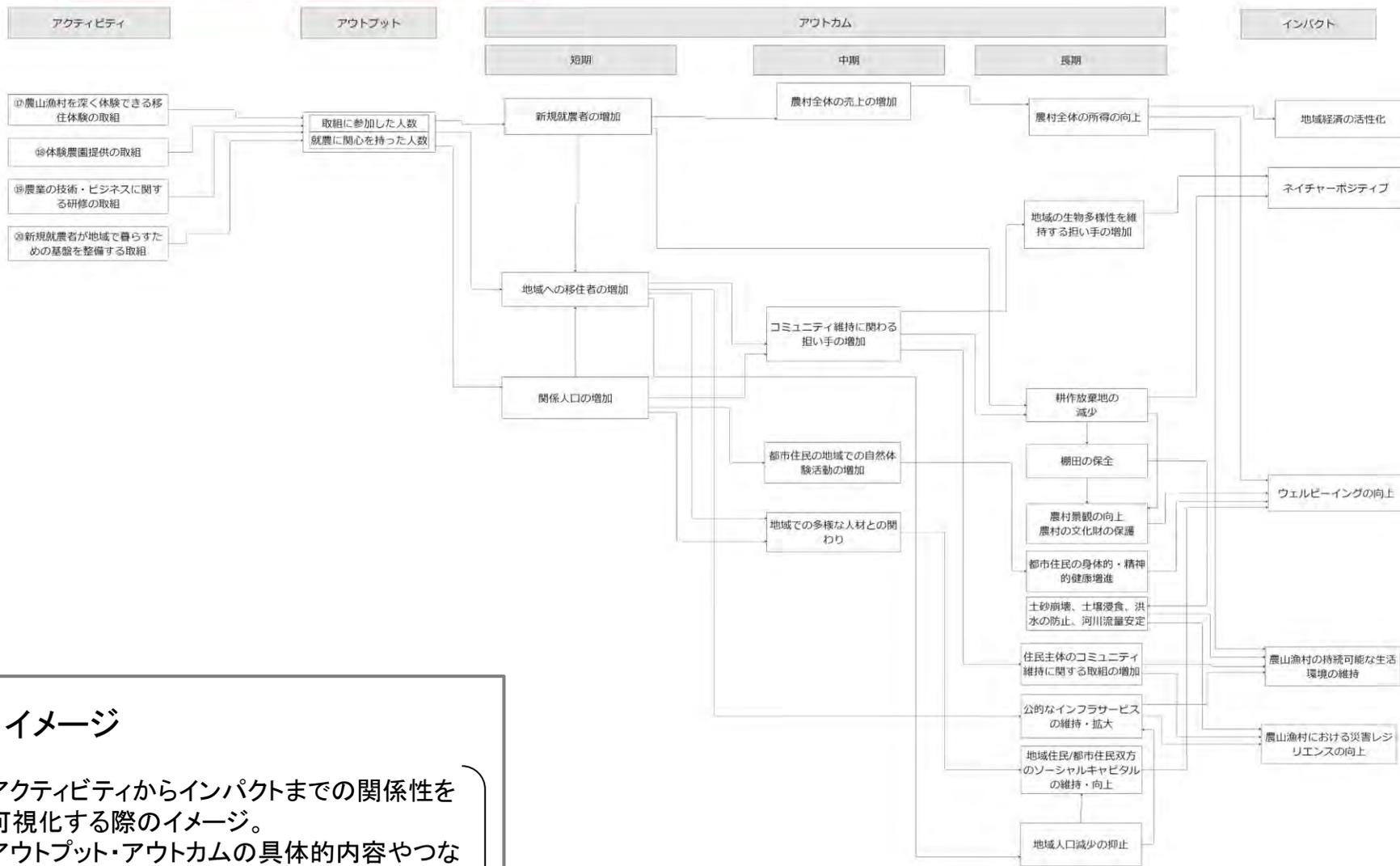


※イメージ

（アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。）

3. ロジックモデル案について（参考：テーマ別ロジックモデル）

④ 農業開始のハードルを低くする仕組みを作る

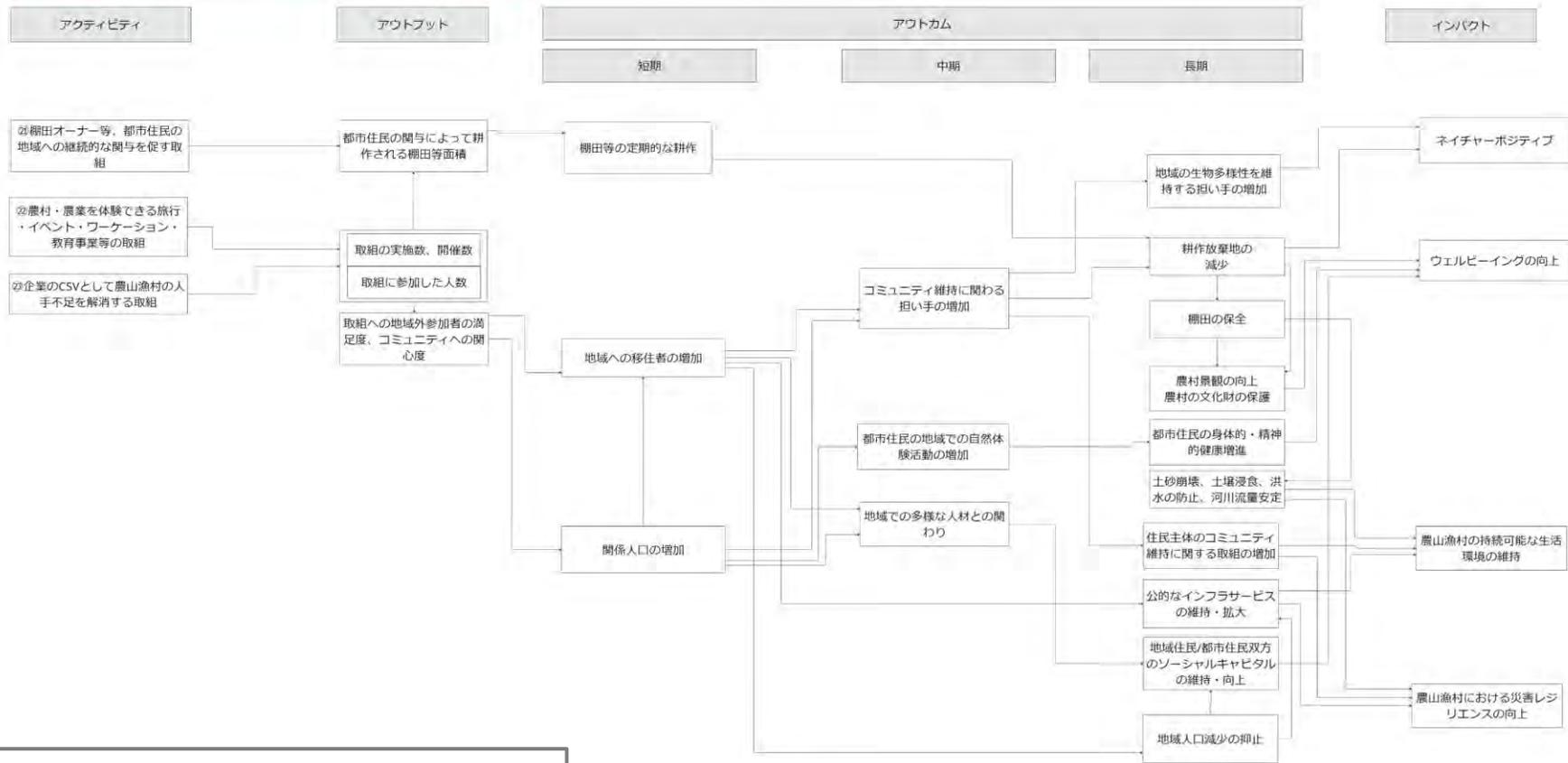


※イメージ

アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。

3. ロジックモデル案について（参考：テーマ別ロジックモデル）

⑤ 農村コミュニティへの関心を喚起する

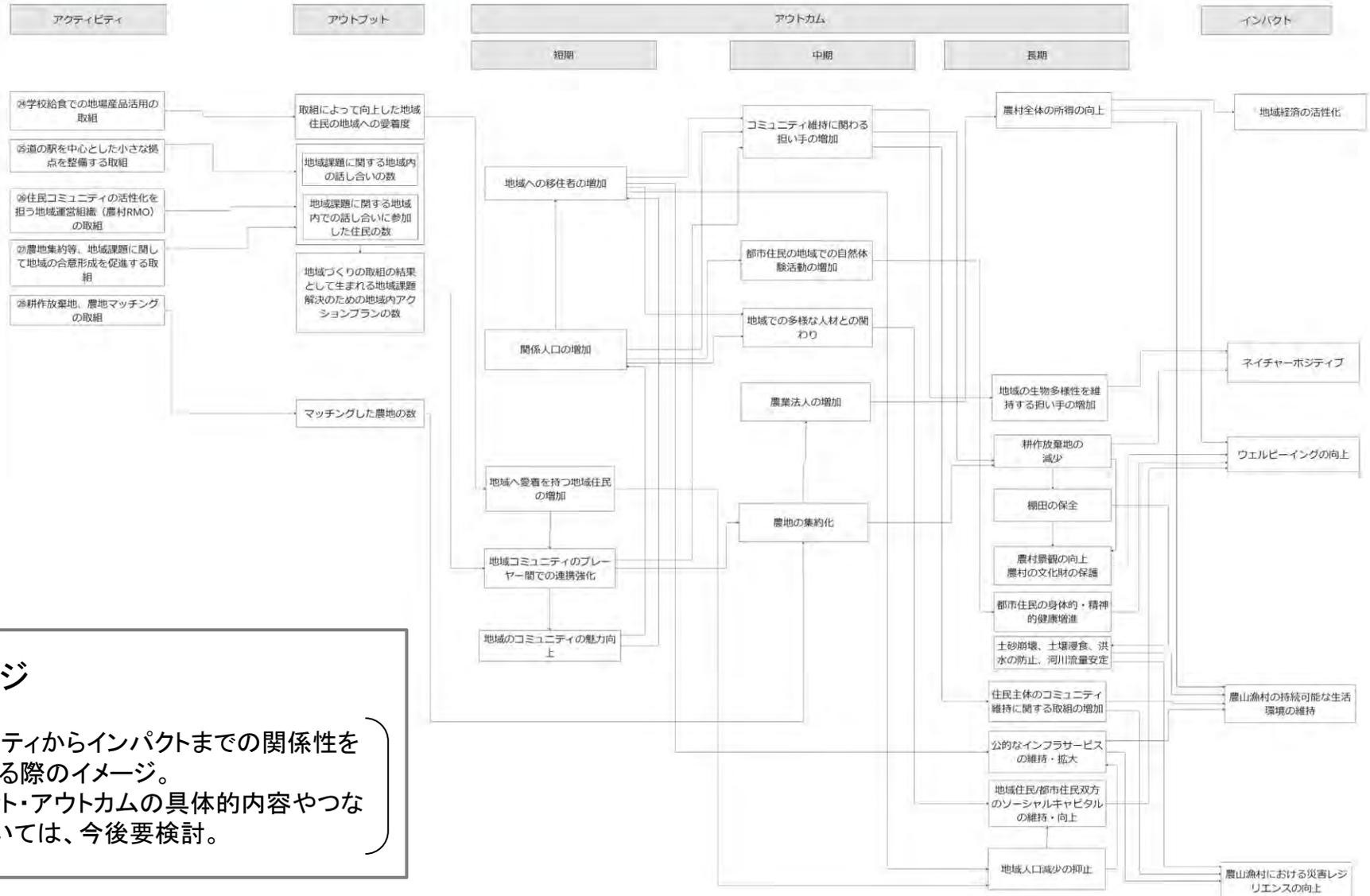


※イメージ

アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。
アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。

3. ロジックモデル案について（参考：テーマ別ロジックモデル）

⑥ 地域内の合意形成を促進する

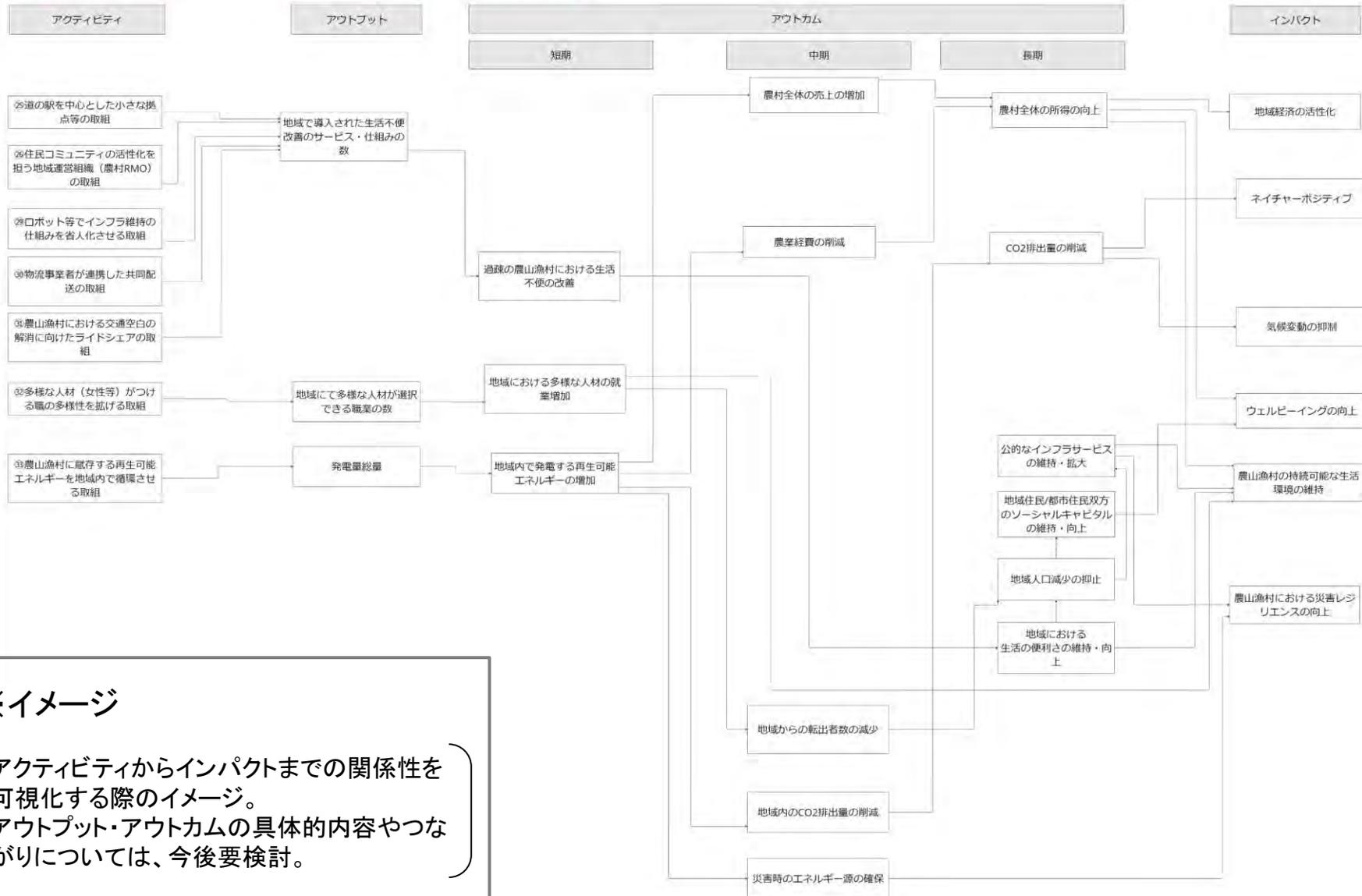


※イメージ

アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。
アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。

3. ロジックモデル案について（参考：テーマ別ロジックモデル）

⑦過疎地域でも農村活動・生活維持ができる仕組みをつくる



※イメージ

（アクティビティからインパクトまでの関係性を可視化する際のイメージ。アウトプット・アウトカムの具体的内容やつながりについては、今後要検討。）

(参考) ガイドラインの内容について

目次イメージ

はじめに

本ガイドラインの活用方法

第1章: 官民共創による農山漁村における課題解決の基本的な考え方

1. 農山漁村をめぐる事情
2. 成功事例とそのポイント(検討会での事例を記載)
3. 企業版ふるさと納税とインパクト投資の概観
4. なぜ今インパクト重視の企業版ふるさと納税や投資が求められるか

第2章: 農山漁村における課題解決に対する社会的インパクト評価の方法

1. インパクト評価のプロセス
2. インパクト設定、事前評価(ロジックモデルの作成)
3. 事後評価
4. インパクト開示

第3章: 農山漁村におけるアクティビティと「社会課題」へのロジック(繋がり方)の5類型

1. SDGs等の指標と関連するインパクト
2. 農山漁村の課題を解決するアクティビティ、ロジックモデル
3. 農山漁村の課題の構造化とボトルネックの抽出
4. 各アクティビティの事例

第4章: 事例創出のコミュニケーション

1. 出し手となりうる具体的なリスト
2. 訴求の方法
3. 今後の支援策(モデル選定、案件形成に対する支援、評価・公表・表彰等)